

学力アップ大作戦

～教育都市高崎の創造を目指して～

学力アップ大作戦の概要

○高崎市学力向上推進会議

基本方針を定める・市全体の課題について協議する・情報提供したり提言したりする

○高崎市学力向上推進会議・全体会

学力向上推進会議の代表と地域運営委員会の代表が一同に会し情報交換をする

○地域運営委員会

地域の特性に応じた具体的取組内容を検討し、実施計画を作成・改善する

○コーディネーター

学習会の総合的な調整役・ボランティアの募集や配置・名簿の作成等をする

○学習支援ボランティア

学習会で児童生徒に学習支援をする(保護者・地域人材・学生)

PROFILE

群馬県高崎市教育委員会 ぐんまけんたかさきしきょういくいいんかい

本市は、東京から北西におよそ100km、群馬県の南西部に位置しています。江戸時代の五街道のひとつ中山道が市を貫き、当時から宿場町として、人々の往來の拠点として栄え、古謡にも「お江戸見たけりゃ、高崎田町」と歌われるほどでした。現在も交通の要衝として、関越道、上信越道、北関東道、上越、北陸新幹線などの交通拠点となり、平成23年には、中核市に移行し、人口約37万人の県内最大の都市となりました。市立幼稚園、学校数は、幼稚園8園、小学校58校、中学校25校、特別支援学校1校、高等学校1校、全93校園、約32000人の園児、児童生徒が在籍しています。



① 学力アップ大作戦

平成23年に就任した本市の富岡賢治市長は、元文部科学省等の要職を歴任し、教育行政に精通しています。市長就任早々、発展を続ける人口37万人の中核都市の魅力のひとつに、学力の向上が欠かせない魅力である旨の話をされ、最大限の支援をいただいています。また、本市の飯野眞幸教育長は、富岡市長と以前から交流があり、県内屈指の進学校の校長を歴任し、本市の教育長に平成23年に就任しています。飯野教育長は「小学校段階での算数のつまずきや算数・数学嫌いが高校生の進路選択に大きな影響を及ぼす」として、算数・数学の指導の充実が喫緊の課題であると指摘していました。

このような状況の中で、始まったのが学力アップ推進事業です。通称「学力アップ大作戦」は富岡市長の命名によるものです。このような経緯を経てスタートした事業は、学力向上はもちろん、学力向上に向けた環境づくり、子どもの居場所づくりにもつながっています。

今年度で、この取組も4年目を迎えました。各学校に

設置された「地域運営委員会」がその取組の主体を担い、児童生徒の基礎学力の定着を促進し、多くの児童生徒の学習意欲を高めていく意識が地域の中に浸透し始めていることを実感しています。

② 地域運営委員会の役割

本事業の母体をなすのが、「地域運営委員会」です。各学校区で、学校、地域住民及び保護者が連携し、児童生徒の学力向上のための取組を協議し、地域の特性に応じた取組を推進するための委員会です。構成員は10人以内とし、地域住民、保護者、学校職員等となっています。地域運営委員会では、実施校の実情に合わせた実施日、実施時間等を具体的に検討し、実施計画を作成、改善を図っています。

③ 学習等内容について

内容については、算数・数学を中心とした学習となっていますが、中学校では英語を実施している学校もあります。実施期間は、5月から翌年2月までとなっています。主に放課後を中心に実施していますが、土・日曜日の開

催の校区もあります。ボランティアの調整をコーディネーターが中心となって、学習会の支援に当たってくれています。平成28年度の学習会の回数は、小中約2,600回、参加児童生徒数はおよそ72,000人、ボランティア数はおよそ25,000人でした。ボランティアの方には、地域の方、保護者、大学生など、多種にわたっています。学校によっては、近くの高等学校や大学などとも連携し、各地域の実態に応じた工夫をし、児童生徒の基礎学力定着を進めてくれています。



中学校学習会の様子



小学校学習会の様子

④ 教育委員会の支援

ボランティアの申し込みは、教育委員会が窓口となっています。ボランティアには、一定の謝金を教育委員会が負担しています。謝金については、ボランティアのほか、地域運営委員会の委員にも支払われています。また、学習会で使用するプリントや消耗品についても教育委員会で予算化しています。学習会で使うプリントについては、データソフトを購入し、各校区の地域運営委員会で使用できるようにして、ボランティアの方が印刷等を行っています。その他に、ボランティアと児童生徒の

保険についても予算化しています。学習支援に来校する際の事故や学習中のトラブルなどを想定しての対応です。財源は、市の単独予算だけでなく、文部科学省からの補助事業を活用し、地域運営委員会の充実を図っています。



⑤ 成果と課題

本市は「すべては子どもたちのために」を合言葉に、学力向上、いじめ防止などについて、家庭、地域と連携した取組を推進しています。

ボランティアの方々から「子どもたちと触れ合うことができたり、手助けができたりして、参加するのが楽しかったです」「子どもたちの力が少しずつ伸びていくのが実感できて、やりがいを感じました」などの感想をいただいています。児童・生徒からは、「勉強したことが、復習できるのでよい」「できなかったところに戻ってやり直せる」といった声を多く聞きます。

本事業の成果は、1つ目に、「地域の子どもは地域で育てる」という意識が高まり、学力を向上させるのは学校だけでなく、地域全体での取組となってきた点です。2つ目に、地域の大人と子どもとが触れ合う中で、結びつきができ、様々な大人の目が子どもを見守ることにつながってきている点です。

一方、課題は、地域や校種による開催日の設定数やボランティアの人数確保です。各地域で抱えている事情は様々ですので、「できる範囲で」、「継続できること」をそれぞれが役割や趣旨を意識していけるよう、中心的な存在である地域運営委員会への支援を続け、成果を上げていくことと言えます。